

# DX・生成 AI 活用に関する質問のポイント

## 1. 生成 AI による業務改善と教育利用

**行政事務の効率化**：人口減少社会において行政サービスを維持するため、生成 AI を業務効率改善に積極的に活用すべきと提言しました。

**リスク管理**：セキュリティ面の懸念に対し、学習をさせない「オプトアウト」設定などの対策を講じつつ、活用の可能性を探るよう求めます。

**学校教育での利活用**：子どもたちが AI を正しく効果的に使いこなし、深い学びを実現するための指針やルール作りについて、市の方向性を質しました。

## 2. 「役所に行かなくても良い」窓口の実現

**手続きの利便性向上**：オンライン化率 8 割という数字の一方で、「画面が複雑」「結局区役所に行く必要がある」という市民の声を代弁し、質の向上を求めます。

**自治会業務のデジタル化**：行事の実施報告や事前申請など、未だに区役所へ足を運ぶ機会が多い自治会関連業務のオンライン化を強く求めます。

千葉市議会のウェブサイトでは一般質問、代表質問の録画放映が視聴できますので是非ご覧ください！



# グリスロ都賀の台地区本格運行開始！

新たな地域の足となるグリーンスローモビリティ（通称：おさんぽバス）の本格運行開始セレモニーが、2月11日（祝）に都賀の台自治会館にて盛大に開催されました。

2022年の実証調査から約3年。地域のボランティアや自治会が中心となり、一歩ずつ積み上げてきた努力が実を結び、本格運行が実現しました。

「高齢者の外出支援だけでなく、多世代が交流できる温かいコミュニティの拠点」として、地域に根差した運行を行っていきます。



### プロフィール

- 1984年：千葉県立四街道高等学校卒業
- 1988年：千葉工業大学工学部電子工学科卒業  
松下電器産業株式会社入社
- 1996年：米国連邦危機管理庁（FEMA）など米国防災視察団一員
- 2000年：（株）トレジャー・コミュニケーションズ代表取締役就任
- 2011年：千葉市議会議員選挙（若葉区）初当選  
自衛官募集相談員
- 2013年：千葉県ドッジボール協会 理事長  
民主党千葉県第9区総支部 幹事長
- 2015年：大都市制度・地方創生調査特別委員会 委員長
- 2016年：千葉県立四街道高等学校 同窓会会長
- 2017年：都賀の台自治会 会長  
環境経済委員会 委員長
- 2019年：超高齢社会調査特別委員会 委員長  
千葉東ライオンズクラブ 会長
- 2020年：未来立憲民主ちば 幹事長
- 2021年：千葉市監査委員
- 2023年：千葉市議会議員選挙（若葉区）4期目当選  
ドッジボール関東ブロック連絡会 会長  
千葉市議会 副議長
- 2025年：千葉市教育・文化・スポーツ等功労者賞 受賞



ホームページ



X (旧 Twitter)



Facebook



Instagram

市政へのご意見・ご提案をお待ちしています。

TEL：043-207-5561

## 活気ある千葉市へ！！

千葉市議会議員

# 麻生のりお

市議会便り No.32



自宅：千葉市若葉区都賀の台3-10-37  
 事務所：千葉市若葉区西都賀5-9-1  
 TEL：043-207-5561  
 携帯：090-4838-7511 FAX：043-207-5562  
 E-MAIL：aso@n-aso.com  
 ホームページ：http://www.n-aso.com/

## 一般質問 学校水泳の民間委託を加速を！

平成30年第4回定例会において、市議会で初めて「小学校水泳学習における民間スイミングスクールの活用」を提案しました。当初はモデル校2校から始まり、全国的な広がりを見せています。災害級の猛暑が続く昨今、子どもたちの命を守り、教員の負担の軽減に向け「水泳学習のあり方」について、改めて市の姿勢を質しました。

### 変わる学習環境 民間活用の必要性

**Q** 室内で専門指導が受けられる民間委託の現状と推移は？

**A** 令和4年度の9校から、5年度は11校、6年度は13校と着実に拡大しています。さらに直近の12月までの実績・予定を含めると、活用校は15校（小学校）、協力スイミングスクールは9か所まで広がっています。

### 財政面・教育面での成果と課題

**Q** この8年間でどのような変化がありましたか？

**A** モデル事業開始前と比較し、学校プールの改修・修繕費は年間平均で約1,400万円の抑制につながっており、一定の成果が出ています。

**Q** 猛暑の中で安全に見学場所はありましたか？

**A** 9割以上の小学校がテント等を設置し、室内でタブレットを活用した学習を行うなど、安全確保に努めています。

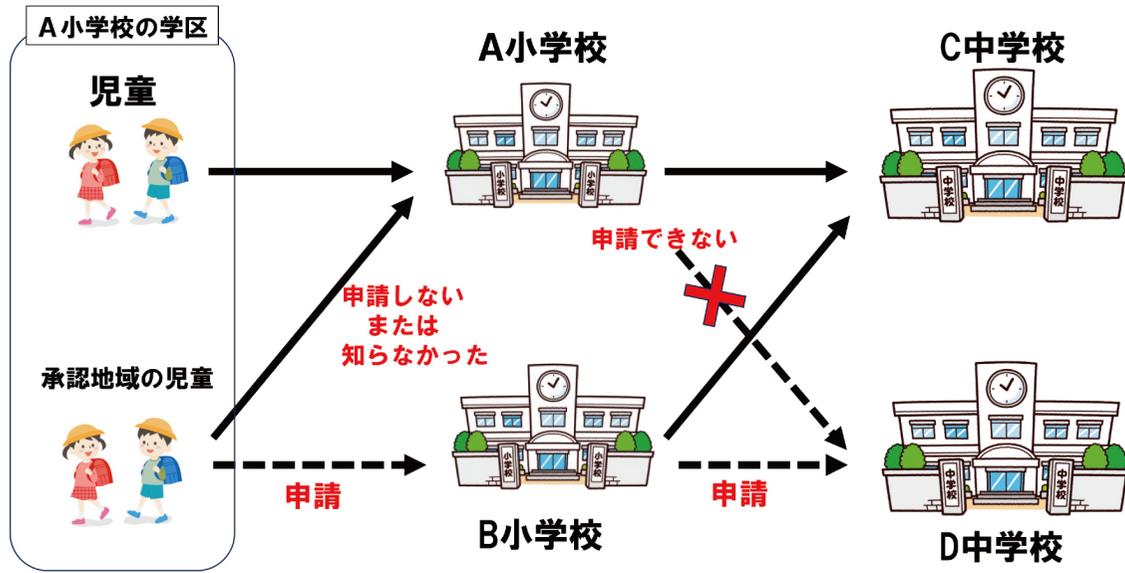


## 「実施可能20校」の早期実現を求めます！

●市は、築年数や移動距離などの条件を満たす学校を「20校前後」と想定していますが、早期の実現を強く求めます。実施を待つ保護者や教職員は非常に多く、財政効果も明確です。

●プロのインストラクターによる指導で子どもたちの笑顔が増え、教員が本来の業務に専念できる環境を作るための「未来への投資」です。今後、1校あたりの実施回数の調整や、スイミングスクールの休館日以外での活用などさらなる研究を進め、1人でも多くの児童生徒が快適な環境で学べるよう、事業の強力な推進を期待します。

# 小中学校の学区の見直しを！



## 学区外通学の利用状況と増加傾向

**Q** 学区外通学している児童生徒はどのくらいいますか？

**A** 市全体で約 10% の児童生徒が、指定校以外の学校へ通学しています。承認件数の推移：令和 4 年度：1,578 人、令和 5 年度：1,687 人、令和 6 年度：1,852 人と、年々増加しています。

**Q** 学区外通学承認地域は、どれだけありますか？

**A** 地理的要因等により指定校の変更が認められる「学区外通学承認地域」が 98 箇所存在します。

## 特定地域における顕著な実態（都賀の台小学校）

**Q** 都賀の台小学校の学区外通学の割合は？

**A** 全児童の約 43% が学区外からの通学です。昨年度は約 50% に達していましたが、団地内を安全に歩いて通学できるなど、大通りを避けた安全性の確保が主な理由（承認地域）となっています。

## 周知不足の解消と改善

**Q** 新たな周知策を求めますがどうですか？

**A** 制度を知らない新 1 年生の保護者へ情報を届けるため、来年度の就学時健康診断時に「学区外通学承認地域」に関する案内を直接配布することに決定しました。

## 学区外申請の進学時の柔軟な運用を求めます！

- 小学校を学区外通学した場合、中学校も申請により引き続き、同じ地域の学校へ進学可能です。
- 小学校を学区外申請しなかった場合、中学校は現在は申請できません。

## 抜本的な解決に向けた提言「学区の再編」を求めます！

- これほど高い割合で学区外通学が行われているのは「学区が現状に合っていないから」と指摘しました。
- 申請による個別対応（承認地域制度）だけでなく、自治会の状況や地理的要因を鑑みた、通学区域そのものの再編を検討するよう求めます。

# 災害対応力の更なる強化へ！



## 千葉市総合防災情報システムの進展と評価について

**Q** これまでの運用実績はどうですか？

**A** 令和 5 年 4 月の運用開始からこれまでに 4 回、台風や大雨などの風水害で市災害対策本部が設置し、稼働しました。

## さらなる拡張を求め、導入へ！

- 大規模災害時に課題となる「罹災証明書の発行」を早めるための「被害認定調査システム」導入が決定し、令和 7 年 10 月に稼働しました。
- 情報の統合：かつて市内に 19 種類あった GIS（地理情報システム）は 14 種類に統合され、ライフライン情報の更なる統合が求められています。

## 代表質疑 教育・こども施策の主要テーマ



## アフタースクールの拡充

全校配置に向けた「量」の拡大から、提供内容の「質」への転換を促します。

**進捗状況**：毎年 10 校ずつの導入が順調に進み、令和 12 年度の全校配置に向けた流れを評価します。

**プログラムのミスマッチ**：せっかくの体験・継続プログラムも、参加者が少ないものがあるなど、本来の目的を果たせていません。

**今後の改善**：現場から聞こえる「課題の声」を反映し、より実効性のある運営体制へのアップデートを求めます。

## 小学校遊具の格差と安全管理

「どこの学校に通っても豊かな遊びができる環境」を求め教育の公平性を問います。

**学校間格差の是正**：児童数や校庭の広さの違いは認めつつも、設置状況に大きな格差が生じています。

## 防災ポータルサイトの認知向上へ！

**Q** 市民の認知度はどうですか？

**A** アクセス数は令和 5 年度の約 51 万件から、令和 6 年度には約 96 万件へと大幅に増加しました。

## 生活用水の確保へ（防災井戸の推進）

**Q** 上下水道の耐震化は、どこまで進んでいますか？

**A** 下水道の耐震化は約 80% 後半まで進んでいますが、上水道の耐震化は依然として遅れています。

## 防災井戸の拡充を求めます！

- 全国 8 万件の井戸情報を開示する方針を受け、本市も「防災井戸協力の家」の指定を進め、代替水源を確保する方針です。

**管理のデジタル化**：「遊具データベース」が未作成であることを再指摘し、老朽化対策の遅れを危惧しています。

**成長への影響**：遊具は単なる遊び道具ではなく、危険予測能力や協調性を養う「学びのツール」であると位置づけています。

## 保育士確保となり手不足の解消

「待機児童ゼロ」という実績を、一過性ではなく将来にわたって維持するための基盤整備します。

**待機児童対策**：6 年連続の待機児童ゼロを評価しつつ、将来的な継続を求めます。

**新制度への対応**：令和 8 年度から始まる「こども誰でも通園制度」の円滑な運用には、保育環境の整備が不可欠です。

**処遇改善の加速**：千葉市手当の増額だけでなく、なり手不足を喫緊の課題と捉え、より踏み込んだ解消策を求めます。